

3 都市づくりの基本方針

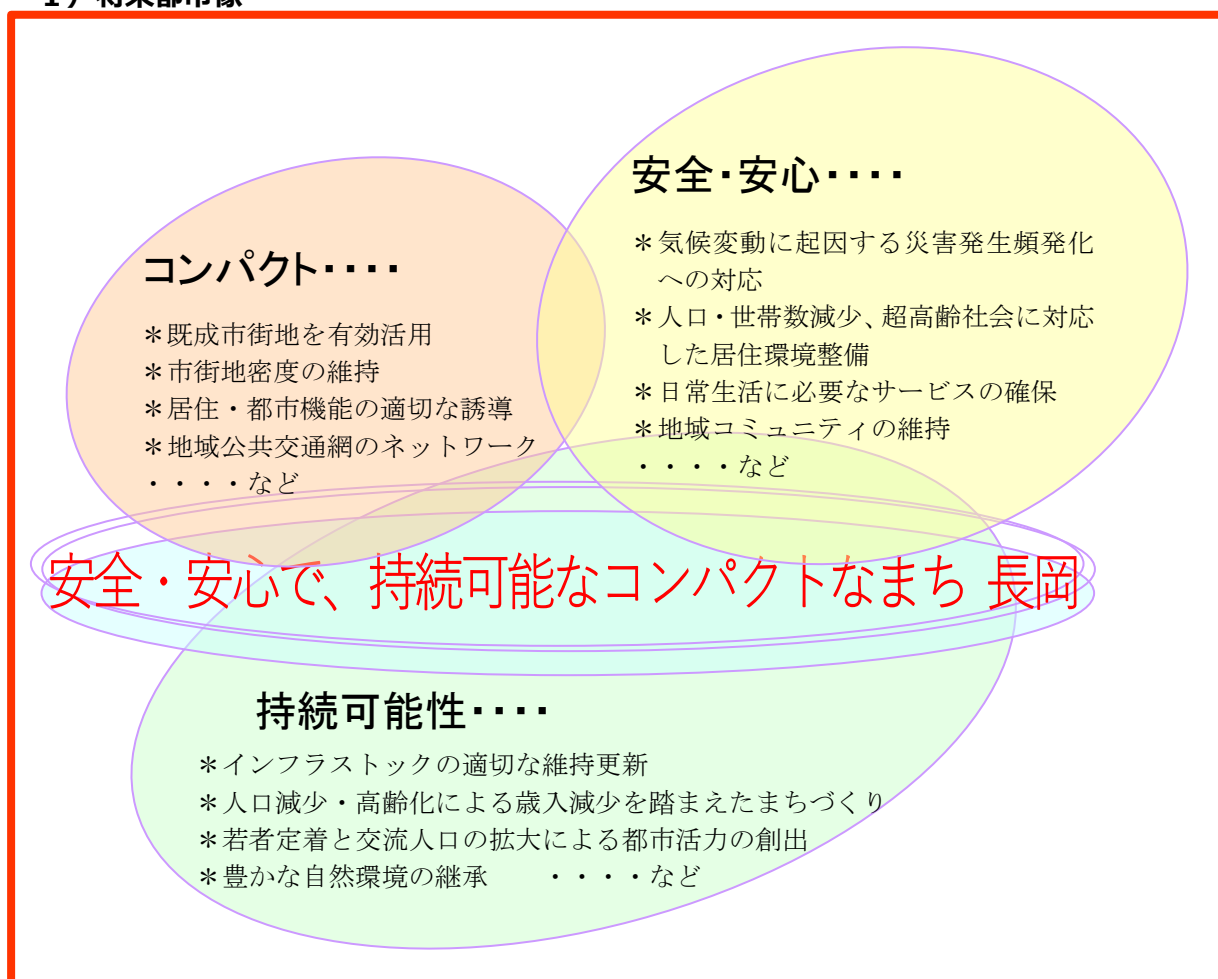


(1) 都市計画マスタープランの基本方針

人口・世帯数の減少を正面から受け止め、「安全・安心で、持続可能なコンパクトなまち 長岡」を実現するため、分野横断的に連携を図り、施策を展開します。

土地利用分野では、立地適正化計画をアクションプランとして、頻発・激甚化する自然災害等への対応など計画的かつ調和のとれた取組を進めます。

1) 将来都市像



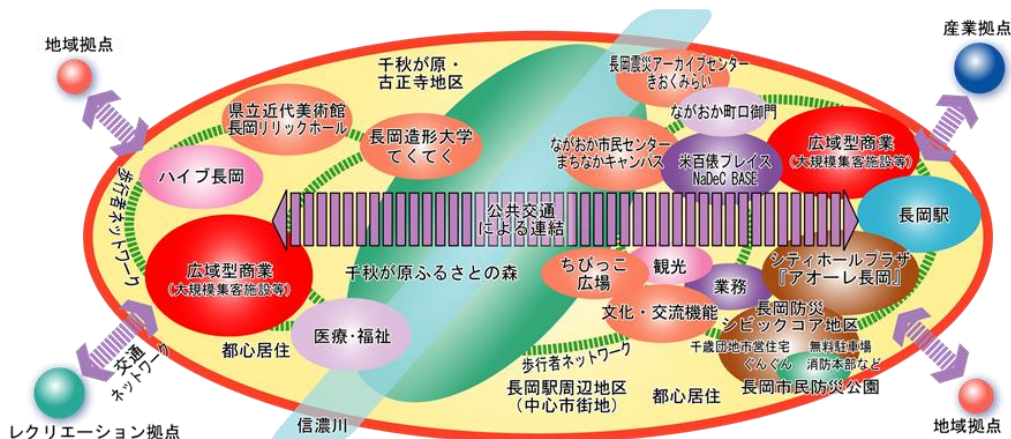
出典: 長岡市都市計画マスタープラン(令和3年3月)

2) 将来都市像の実現に向けた 都市づくりの“3つのポイント”

1	都市の活力を生み出し、生活を支える3つの拠点を形成し、円滑な交通ネットワークで結ぶ
2	人口・世帯数減少を見据え、既成市街地を有効活用する
3	安全・安心で持続可能なまちづくりを追求する

拠点①：都心地区

都心地区では、商業・業務、教育・文化、行政、医療・福祉など高度な都市的サービスを提供

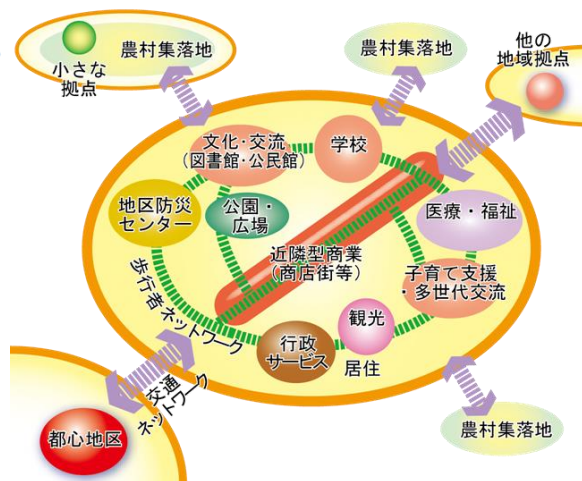


拠点②：地域拠点

地域拠点では、住宅、商店、福祉施設など日常生活に必要な基礎的サービスを提供

拠点③：小さな拠点

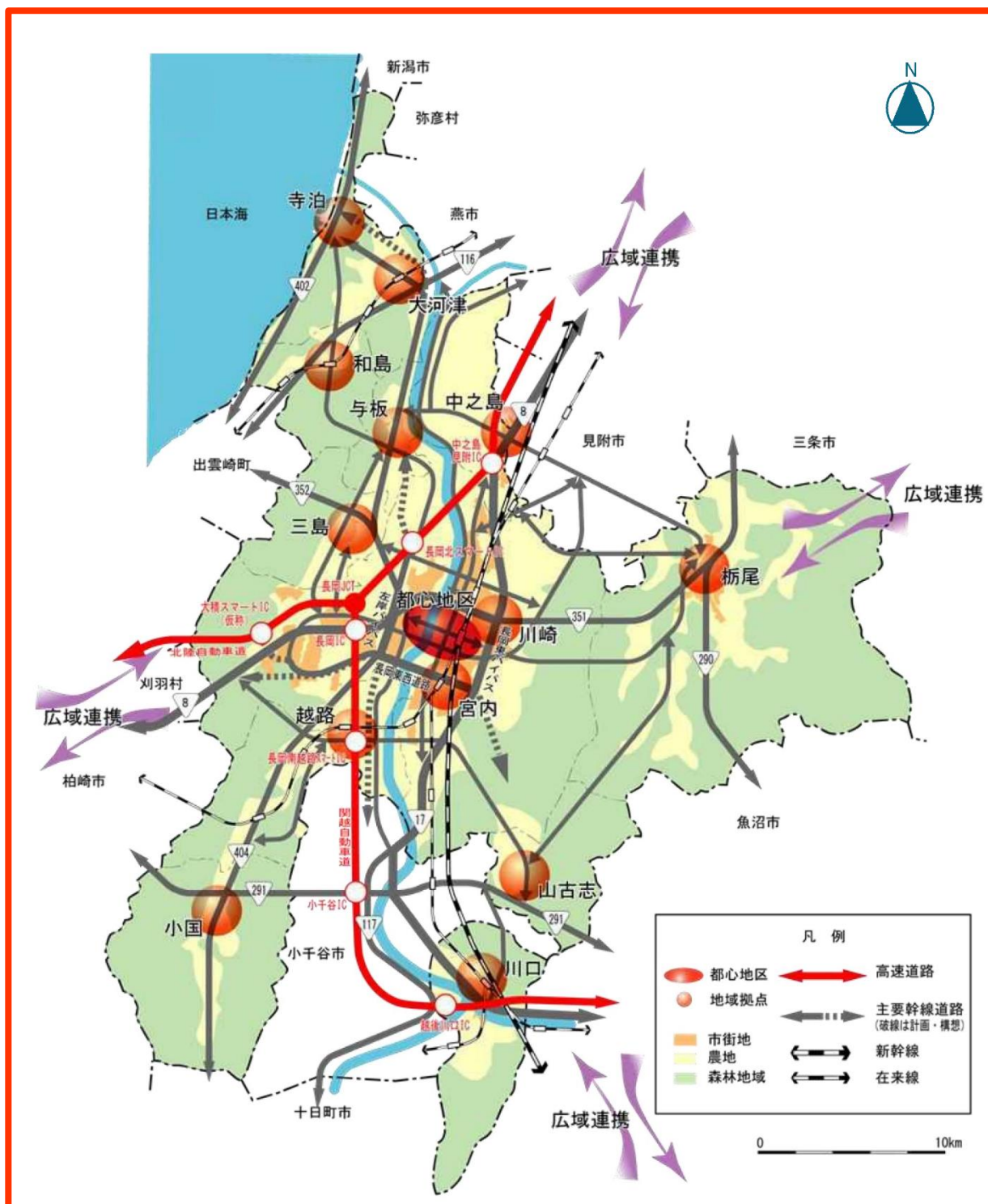
コミュニティセンターを基本単位とし、「ふるさと集落生活圏」の範囲内で中心的な役割を担っているところを「小さな拠点」とし、各集落に応じた複数の都市機能を集約・確保することを目指す。



出典：長岡市都市計画マスタープラン

(令和3年3月)

3) 将来都市構造図



出典: 長岡市都市計画マスタープラン(令和3年3月)

(2) 将来都市構造の実現に向けて

都市計画マスタープランの目指す将来都市構造の実現に向け、本計画では拠点及び交通ネットワークを次のとおり設定します。

- 都市拠点として、都心地区と地域拠点を位置付けます。
- 都心地区と各地域拠点間を公共交通で結びます。
- 各地域拠点間、各地域拠点と小さな拠点間は、公共交通や地域生活交通で結びます。
- 災害時にも拠点機能を補完し合うことができる地域間ネットワークを維持します。

■ 拠点と交通ネットワークのイメージ



※ 上記は、具体的な公共交通網等ではありません。市域全体における公共交通及び地域生活交通の維持や公共交通空白地対策等については、今後、長岡市地域公共交通計画等に基づき取組みを進めていきます。

(3) 都市づくりの方向性

人口減少下でも、「安全・安心で、持続可能なコンパクトなまち 長岡」を実現するため、災害に備えた市街地には地域や地域を支える都市機能を、歩いて暮らせる生活圏には居住を維持・誘導し、公共交通で連携するまちづくりを進めます。

■都市拠点の役割

【都心地区】長岡地域の中心市街地・シビックコア地区、千秋が原・古正寺地区など

- 総合病院、ショッピングセンター、美術館などの広域かつ高度な都市機能が集積し、中越地域全体の中核機能を担っています。
- これらの都市機能により、市内外の住民が集まり、活力とにぎわいを創出します。
- これらの地区で安全性の向上を図ることにより、集まる人に安全・安心な空間を提供します。

【地域拠点】長岡地域の宮内・川崎地区、
中之島、越路、三島、栃尾、与板、川口地域の中心部

- 診療所、総合スーパーマーケット、ドラッグストア、市役所支所などの都市機能がある程度まとまって集積し、地域の生活を支えています。
- これらの施設に地域住民が集まり、快適で利便性の高い暮らしが享受できます。
- これらの地区で安全性の向上を図ることにより、暮らす人に安全・安心な空間を提供します。

■居住と都市機能について

- 都心地区に、既存ストックを活用しつつ、都市機能を集積し、維持します。
- 地域拠点に、生活サービス機能を維持・誘導し、歩いて暮らせる生活圏の形成と、利便性の高い生活環境の維持を図ります。
- 都市基盤が整い、市街地を形成している区域（既成市街地）では、都市機能が立地する利便性の高いエリア周辺に居住を誘導します。
- 都市拠点の安全性を評価し、防災・減災対策に取り組むなど、安全性の向上が図られたエリアに、居住や都市機能の維持・誘導を図ります。

■公共交通について

- 都心地区と各地域拠点間を公共交通で結びます。
- 各地域拠点間、各地域拠点と地域内の集落間は、公共交通や地域生活交通（コミュニティバスなど）で結びます。
- 災害時にも拠点機能を補完し合うことができる地域間ネットワークを維持します。